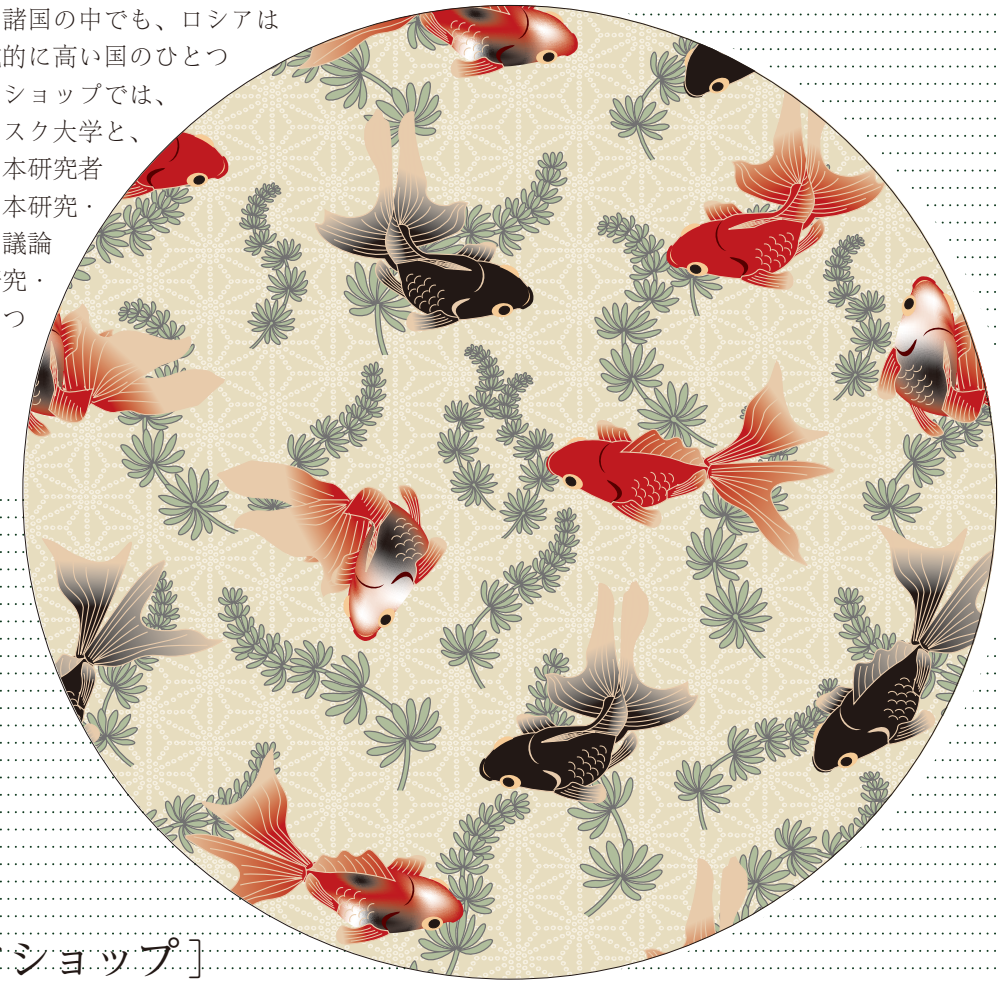
日本研究は、文字通り国際的な学術研究領域としてある。欧米・アジア諸国の中でも、ロシアは日本への関心が伝統的に高い国のひとつである。このワークショップでは、ロシア・ノボシビルスク大学と、東北大学等仙台の日本研究者が、両国における日本研究・理解の動向と特色を議論しながら、今後の研究・教育交流の可能性について考える。

東北大学



［日露ワークショップ］

日本文化を教えるⅡ：ロシアと日本の日本研究者の対話

2014年 11月 29日（土）

13:00 ～ 18:00

会場 / 東北大学付属図書館 1F 多目的室

入場無料：参加自由

●オープニングセッション
開会の辞
趣旨説明：岡 洋樹東北アジア研究センター長

●プレゼンテーション
報告１：エレーナ・ヴォイティシェク 氏（ノボシビルスク国立大学教授）
「シベリアにおける日露文化交流」
報告２：長岡 龍作氏（東北大学大学院文学研究科教授）
「日本における日本美術史研究の現状」
報告３：ヴォルコフ・パーヴェル 氏（ノボシビルスク国立大学准教授）
「現代の実験考古学と民族学の発展の見通し」
報告４：阿子島 香 氏（東北大学大学院文学研究科教授）
「現代日本考古学の展望：方法論的な特色および社会的な背景」
報告５：シモノヴァ・エレーナ 氏（ノボシビルスク国立大学講師）
「マスラオぶりとタオヤメぶり：
日本文化におけるジェンダーステレオタイプの影響」
報告６：エヴゲニヤ・フロロヴァ 氏（ノボシビルスク国立大学助教授）
「通過儀礼と幼稚化する現代社会：日本とロシア」
報告７：窪 俊一 氏（東北大学大学院情報科学研究科准教授）
「日本におけるマンガ研究の現状」
報告８：ポダルコ・ピョートル 氏（青山学院大学教授）
「現代日本のロシア人ディアスポラと『露日関係問題』」
報告９：高倉浩樹 氏（東北大学東北アジア研究センター教授）
及川 高 氏（東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者）
「東日本大震災後の無形文化遺産調査と日本研究」

●コメント　千葉 正樹 氏（尚絅学院大学教授）「日本史研究の立場から」
佐藤 勢紀子 氏（東北大学大学院国際文化研究科教授）
「日本文学研究の立場から」

●討論　ファシリテーター：岡 洋樹 氏（東北大学東北アジア研究センター長）
閉会の辞

主催 / 東北大学ロシア交流推進室
共催 / ノボシビルスク国立大学、東北大学大学院文学研究科・大学院国際文化研究科・東北アジア研究センター
お問い合せ / 東北大学国際交流課連携推進係：Tel: 022-217-4844　Email: kokusai-r@bureau.tohoku.ac.jp